

## 東京の水産業振興に向けた専門懇談会（第3回）議事録

日時：令和6年2月9日（金曜日） 13時00分～14時40分

場所：東京都第一本庁舎 21階東京海区漁業調整委員会室

小口課長代理	<p>〈開 会〉</p> <p>定刻となりましたのでただいまから令和5年度東京の水産業振興に向けた専門懇談会第3回を開催いたします。</p> <p>事務局の小口です議事に入りますまでの間、進行を務めさせていただきます。</p> <p>本日の委員の皆様の出席状況でございますが、委員・オブザーバーの皆様全員参加となっております。</p> <p>なお本日の懇談会はインターネットの同時中継を行います。また議事録は公開されますのでご了承ください。</p> <p>それでは、議事に入ります。</p> <p>ここからの進行につきましては、関座長どうぞよろしく願いいたします。</p>
座 長 (関委員)	<p>はい、座長を務めさせていただきます関です。</p> <p>会議が滞りなく円滑に進みますよう皆様のご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>それではこれより議事の「懇談会でのご意見を踏まえた令和6年度の展開について」を、進めてまいります。</p> <p>資料の説明を1項目ずつ、藤井水産課長からお願いします。</p>
藤井水産課長	<p>はい、水産課長の藤井でございます。</p> <p>説明につきましては着座のまま失礼させていただきます。</p> <p>それではお手元の資料に基づきまして、これから説明を進めてまいりたいと思います。</p> <p>これまで皆様にご議論いただきました5つの分野につきまして、本日は皆様のご意見を踏まえまして、令和6年度に実施します施策を取りまとめました。後ほどご説明をいたします。なお本日も含めましてこれまで懇談会での議論を取りまとめまして、今後ホームページで公表する予定でございますのでご承知いただきますようよろしくお願い申し上げます。</p> <p>では資料に基づきご説明をいたします。</p>

	<p>1 番、海洋環境分野からご説明をいたします。</p> <p>まず1つ目の視点でございます、資源管理の推進でございますけれどもこちらでは資源調査、それから評価の拡充を図るため、大学と連携し、キンメダイやハマトビウオといった、主要魚種の移動生態の解明を進めるとともに、操業情報を迅速かつ効率的に収集するためのデジタル操業日誌などの運用を開始する予定でございます。また漁業者と連携した標識放流対象魚種をこれまでのキンメダイに加えましてキハダマグロにも拡充する等、取組みを進めていくこととしてございます。こうした取組みによりまして、島しょ地域での主要魚種の資源管理の一層の推進を図ってまいりたいと考えております。</p> <p>また次の2つ目の視点海洋環境変化への対応でございますが、こちらでは藻場の再生や新たな魚種の生産に対応するため、栽培漁業センターのリニューアルに向けました設計に着手するなど研究等の基盤強化を図ってまいります。</p> <p>また海藻種苗を海域に設置することなどによりまして効果的な藻場造成技術の開発に着手いたします。</p> <p>併せまして藻場増成の結果生じますブルーカーボンについてでございますけれども、こちらのクレジット化に向けた検討も進めていくこととしてございます。</p> <p>なお、資料に記載はございませんけれども、これまでにご意見を賜りました、単一魚種に依存しない複合的な操業形態への転換についてはこれから国の方で TAC 魚種の拡大なども予定されているということで、こういった動向を見極めながら、今後の対応を検討してまいりたいというように考えております。</p> <p>以上が海洋環境分野についてのご説明になります。</p> <p>閑座長よろしく願いいたします。</p>
座 長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>ただいま 1 の海洋環境につきまして事務局から資料説明がございました。このことに関してご質問ご意見等ありましたら遠慮なく願いいたします。加えてのご提案等でも構いませんのでお願いいたします。</p> <p>はい、木村委員。</p>
木村委員	<p>具体的に大学との連携というのはもう既に進められていると思うのですが、それに加えて新たなものを考えていくということなのか、それとも今の既存のものをそのまま継続していくのか、どちらになるのでしょうか。</p>

中野島しよセンター所長	<p>島しよ農林水産総合センター所長の中野でございます。</p> <p>トビウオにつきましては、今年度から既に着手を開始しましたが、キンメダイにつきましては、来年度から強みのある大学と連携して取り組んでいく予定にしております。</p> <p>島しよセンターが、大学と連携してやってくということでございます。</p>
木村委員	<p>是非、そのようなコラボレーションが結構重要で、大学にお任せしてしまっただけということではなく、島しよセンターの研究者の方と一緒に、共同で物事進めていくというのがとても重要ですので、任せきりにならないような対応というのはとても重要だと思います。</p>
中野所長	<p>ありがとうございます。私どもの研究員も大学院に行って勉強して力をつけるというような、そういったことも共同研究する上で1つの視点とっておりますので、任せきりになることがないように、一緒になって取り組んで進めたいと思っております。</p>
木村委員	<p>はい、わかりました。</p>
座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
三浦委員	<p>海洋環境の変化の対応のところで、藻場の造成とか再生が触れられておりますが、それに対して魚礁の設置とか、魚礁とセットにした種苗の放流が大切だと思います。単に種苗を放流しても効果がなかったり、他の魚に食べられてしまったり、様々な弊害が出てきている中で魚礁の近くに放流すると、そこに逃げ込んで残る確率が高くなります。</p> <p>それから藻場につきましても、食害魚って言いますか、藻場を食い荒らす魚が非常に増えていて、それは活性化しているのですが、網で囲うとか、何らかの手を打たないと、なかなか根付かない状況になっているということなのだと思いますが、それについてどうするのか、また、カーボンクレジット化を検討とありますが、カーボンクレジットと言っても、なかなか新規で藻場をクレジット化しても、金額がどんどん下がってきている中において、どういふことを検討しているのか教えていただければと思います。</p>
藤井水産課長	<p>まず1点目のご質問でございますが、特に海藻類につきましては、伊豆諸島では高水温化などによりまして、非常に海藻の生育に厳しい状況となっておりますが、比較的高水温に強い海藻の種類なども検討しておりますが、その移送方法であるとか、海域への設置方法などについて検討をしていくこ</p>

	<p>ととしてございます。そういった知見を元に、漁場整備とセットにした漁場作り、こういったことも将来的に進めて参りたいと思っております。併せまして貝類等の種苗放流については、食害等に合わないような放流手法については、今後検討していく必要があると考えております。</p> <p>2 点目のカーボンのクレジット化についてでございます。今、国でもカーボンのクレジット化を進めていると聞いております。先日聞いたところすと国でもこれから、いわゆるブルーカーボンについて、国際的に炭素吸収源としての効果を発表していくといった話も聞いております。我々としても、昨年 11 月に国で海藻類の CO2 吸収効果についての研究が公表されておりますので、こういったデータなども参考にしながら具体的な吸収効果などについて算定をしていければと考えております。クレジット化については、なかなか単価が廉価になってきているというような状況もございますけれども、漁業者の収入になるようなことも今後検討していきながら、持続的にそういった取組みが進めていけるような仕組みづくり、こういったところも検討していければというように考えております。</p>
三浦委員	はい、ありがとうございました。
中野所長	<p>補足になりますが、島しょ農林水産総合センターでは、皆様のお手元にある資料の左下にある海藻、これはアントクメと言って、比較的高水温に強い海藻なのですけれども、これの移植にかかわる移植試験や生長具合など、先ほど三浦委員がおっしゃるような食害の状況、こういったものがどのような状況なのか、現在調べようとしております。</p> <p>カーボンのクレジット化についてですが、増えたそのアントクメがどれぐらいのクレジットになるのか計算式がありますので、試算をするような、本格的な取組の前段階のところを、今少しずつ始めているような状況です。</p>
三浦委員	はい、わかりました。やはりクレジット化してもなかなか大きな金額にならない中で、クレジット化する前の漁場を増成する際に一緒になって企業を巻き込んで、お金を出していただいて海藻の森を守っていくような、そういう取組を CSR も含めてやっているところも増えてきたので、できたものをクレジットとして販売していくよりは、もっと効果があるのではないかと、最近、言われているのでそういうことも検討していただければと思います。
座長	<p>よろしいですか。</p> <p>はい、ありがとうございました。他に何かございませんでしょうか。</p>
中奥委員	はい、質問ですが、デジタル操業日誌ということで、このイメージを見ま

藤井水産課長	<p>すと、スマホのアプリのような感じがするのですが、これはその沖で入力したらそれがすぐ陸上でリアルタイムで共有できるようなものなのでしょうか。</p> <p>今回の我々で想定をしているデジタル操業日誌でございますが、基本的には、操業後、船が帰港してから漁業者の方に、その日の水揚げ状況であったり、魚種あるいは漁場を入れていただくようなものを想定しております。併せて、漁船には位置情報等を確認できる GPS のついたシステムを搭載予定ですので、当日の操業ルートであるとか、操業位置、こういったものは別途データとして収集できるような、そういった仕組み作りを今進めているところでございます。</p>
中奥委員	<p>ありがとうございます。</p>
座 長	<p>他いかがでしょうか。</p>
木村委員	<p>この資料の左側に出ている新たな魚種の種苗生産ということですが、具体的には何か対象魚は決まっているのでしょうか。</p>
藤井水産課長	<p>新たな魚種の種苗生産についてですが、これまで東京都では、特に貝類サザエ、アワビ、トコブシこういった貝類の生産に特化した種苗生産を行ってまいりましたが、磯焼けが続いている、貝類が減少しているという状況で、もう少し高水温に対応したような、例えば写真にございますようなアカハタのような、どちらかというと南方系の魚種で、定着性も強いものや、あとは藻場を増やすという意味で、海藻類の種苗生産技術の開発なども検討してまいりたいと考えてございます。</p> <p>魚種では、既に技術的には確立しているヒラメなども候補としてこれから実際に東京都の漁業に展開していける可能性を探っていきたいというように考えております。</p>
木村委員	<p>種苗生産で効果が出てくるためには、やはり数年以上の長いスパンでのことを考えなくてはいけないと思いますので、始めたからには途中でやめることなく、一定の期間、再生産が可能になってくるようなプロセスまで追っていった欲しいなと思います。そういう意味では慎重な魚種の選択というのは必要なのかなと考えております。</p>
座 長	<p>はい、ありがとうございます。私からも1つ質問いいでしょうか。</p> <p>デジタル操業日誌であるとか、標識放流ということで、漁業者さんに随</p>

<p>藤井水産課長</p>	<p>分、協力を仰ぐ部分が多いと思うのですが、この辺り誰がそれに対応するとか、どういう最終目的に向かって、どのようにやるのだよとかそういう漁業者さんとのやり取り、意見交換というのは進んでいるところでしょうか。</p> <p>漁業操業情報につきましては、非常に漁業者さんの財産と言いますか、漁場の位置であるとかそういったものは、いわゆる一子相伝ではないですが、秘匿性の高いものですが、やはりこれだけ資源が減ってきているという中で、漁業者の皆様にも、漁獲情報収集の必要性ということをご理解いただきまして、今回 96 隻の漁船が、このシステムにご協力いただくこととなっております。最終的にはこのデジタル操業日誌などを使いまして、将来の漁場予測などにもつがるシステムとなつてございまして、そういったことで漁業者の方にも、多少なりともメリットを還元できるような、そういった仕組みとしております。それに加えまして、やはり漁業者の皆さんも資源管理の必要性、こういったものへの理解が非常に深まっているという中で今回 96 隻の船にご協力をいただけたというように認識をしております。</p> <p>得られたデータにつきましては、行政と試験研究において、データを共有いたしまして、漁業者の方に、そのデータの結果を還元できるような仕組みづくりというのが重要というように認識しておりますので、行政と試験研究が連携しながら、そういったデータの有効活用を図っていきたいと考えております。</p>
<p>座 長</p>	<p>はい、どうもありがとうございます。</p> <p>他にこの海洋環境に関して何かございませんか。</p> <p>よろしいですかね。最後にまたまとめて意見をお聞きできると思いますので。</p> <p>そうしましたら続きまして2の経営というところについてご説明をお願いします。</p>
<p>藤井水産課長</p>	<p>それでは、続いて2の経営分野でございまして。</p> <p>まず、1点目の視点であります漁業協同組合経営の効率化では、人手不足が進んでおります漁協の業務効率化に向けまして、荷捌き作業の省力化を図るためのスマート軽量システム、こちらの導入を支援してまいります。</p> <p>また2つ目の視点であります、漁業所得の向上についてですけれども、衛生管理体制の改善や生産物の品質向上を図るため、漁業生産現場に流通販売のプロの派遣を行うほか、漁獲される魚種が変わってきていることから、新たな需要に対応した新商品の開発や販路開拓にも支援を進めてまいります。</p> <p>また、漁業生産者によりまして東京産水産物の海外販路開拓の後押しをする</p>

	<p>ため、プロモーション活動や試験出荷などへの支援を行いまして、限られた漁獲の中でも所得の向上につなげていきたいというように考えております。</p> <p>なおこれまでにご意見のありました陸上養殖の導入、それから操業転換への支援についても、重要な視点というように認識をしており、今後も継続的に検討を進めてまいりたいというように考えております。</p> <p>以上が経営分野についてのご説明となります。</p>
座 長	<p>はいありがとうございました。</p> <p>この2番目の経営分野に関しまして質問、ご意見ございましたらお願いします。</p>
木村委員	<p>よろしいですか。</p>
座 長	<p>はい。</p>
木村委員	<p>このスマート計量システムというのは、もう確立された技術で導入はすぐに可能なものなのでしょうか。</p>
藤井水産課長	<p>はい、実は今年度までシステムの開発に取り組んで参りまして、ある程度島しょ地域への導入に目処を立てたところでございます。具体的に来年度は2漁協程度に実際の機械を導入、いわゆるデモ機を導入いたしまして、その使い方とかを検討していただき、将来的には複数の漁協に導入できるように検討を進めていきたいというように考えております。</p>
木村委員	<p>多分この類のことは、先ほどの漁業情報の集積も含めて、かなり色々なところがやっているとしますので、是非そういう情報を集約していきながら、より良いものを作り上げてくというようにして、あるいは東京都の技術を他の方にも提供することによって、お互いウィンウィンな関係になるように、是非努力していただきたいなと思いました。</p>
藤井水産課長	<p>ありがとうございます。</p>
座 長	<p>はい、他に。</p>
三浦委員	<p>はい、同じくスマート計量システムのところなのですが、資源管理を行う上でも、漁獲量を正確に把握するというのは非常に重要なことだと思っています。漁協の人材不足を補うためにも、省力化、省人化するためにも必要だと思うのですが、こういうスマート水産業を入れる時に、漁業</p>

者はどちらかという、そういうことに対して、なんて言いますか、ちょっと遅れていると言いますか水産業全体がそういうところでちょっと遅れているところがあるので、習熟に時間がかかったり、理解するのに時間がかかったりします。そういうのを克服するために国でもスマート水産業を進めるために、伴走支援事業というのが今回できたのです。要するに、コンサルみたいな方たちも一緒になって、普及を進めていくような事業というのもできたので、そういう国の事業とかも活用しながら、それからこういうものを進める時には、改良普及員の方々ですとかそれから漁協の職員の方、それらの方たちも一緒になって取組んでいく、こういうことが必要なのかなと思っていますのでよろしくお願ひしたいと思います。

それから海外の販路開拓のところ。これについて、海外に対する販路開拓のところは、このように触れられているのですけれども、インバウンド需要がすごく増えてきて、コロナ前の大体 2,800 万人、2,900 万人と言われていた訪日外国客が、昨年度は 2,500 万人以上にまで増えてきているということで、もう 9 割ぐらいまで、8 割 9 割まで回復していると言われていています。使われたお金も 1 番多い時で 4 兆 8000 億円だったのが、今 5 兆 3000 億円ぐらいまで使われているという状況の中で、やはりこれを取込むことは非常に有効なのではないかなと思います。特に先日のニュース見ていると先客万来の施設が豊洲にできて、築地も旧市場の場外を持っていることを考えていくと、ここを拠点に、東京都の魚をもう少し PR するとか、そういうことも考えながら、せっかくものすごい需要があるのでそこをうまく活用することも重要なのかと思っています。

藤井水産課長

はい、ありがとうございます。

伴走支援事業につきましては、先日国の事業も発表されまして、そういった事業メニューがあるということを知って承知しておりましたけれども、東京都も支援対象になるのかといったようなところも、よく調べまして是非こういった技術が地元で定着するように検討して参りたいと考えております。

また漁協の職員への協力、指導なのですが、都の場合、残念ながら普及員制度はないのですけれども、現地には支庁、いわゆる都の出先、行政とそれから試験研究機関がございますので、そういった職員を中心といたしまして、地元への実装について、できる限りの力を尽くして参りたいというように考えております。

それからインバウンド需要への対応ですが、なかなか今回これに直接対応できるような事業は組めていない状況でございますけれども、そういった必要性というのは、非常に認識をしておりますので、今後水産分野でのインバウンド需要への対応といったことについて、どういったことができるかということは、議論を深めていきたいと考えております。

三浦委員	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>特に本当にその先日ニュースを見ていて先客万来の施設の中で、マグロ丼が正確ではありませんが値段が7,000円ぐらいしていたのですね。やっぱり海外から見ると日本の食はこんなに安くて素材が良くて、こう衛生的でもある。そういうこと考えるとまさにその時代の先に行くような値段設定したのかなと思ひまして、嬉しくなったのでそのことをお話しました。</p>
座長	はい。
副島委員	<p>今のインバウンドのお話も重要な点だと思っているのですけれども、それに加えて、別の項目でもある東京都の消費者にいかにお食べてもらうかということも検討材料にあると思うのですけれども、それらも今検討中という段階の中で、この海外販路開拓のところは例えばどの魚をどの辺りに持っていくという青写真などがあるのかどうか教えてください。</p>
藤井水産課長	<p>現在、東京都漁連が海外販路開拓に力を入れておりまして、漁連としてのお考えはアメリカを中心とした地域に事業展開を図っていきたいということなので、今年もニューヨークやロサンゼルスでイベントを実施したところです。来年度も引き続きそういった地域へのプロモーション活動を図っていきたいというように聞いております。輸入規制が厳しいヨーロッパ方面では、なかなかまだ施設的な問題もあり、対応できなということで、今はアメリカを中心に、特に値段の高いキンメダイ、それからハマダイ、それからメカジキ、こういった魚種などを対象といたしまして、プロモーションをかけていきたいというように聞いております。</p>
副島委員	ありがとうございます。
座長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>他にいかがでしょうか</p> <p>はい。</p>
三浦委員	<p>漁業の所得向上のところで、漁業生産現場に流通販売のプロを派遣するって、こう書いてあるのですけれども、これはどのようなことをイメージしているのか教えていただければと思います。</p>
藤井水産課長	<p>はい、写真でも出ておりますが、特に近年、伊豆諸島海域でクロマグロの漁獲が増えているということなどもありまして、これまでなかなか伊豆諸島</p>

	<p>ではこういった魚種が獲れていなかったのですが、クロマグロが水揚げされているということで、漁業者もなかなかクロマグロの漁獲後の処理技術、こういったものが乏しかったということで、せっかく獲れたのですけれども、漁獲後の処理が良くないということで身焼けを生じたり、非常に品質が落ちてしまっているという状況がございましたので、市場関係の方などに島に行ってくださいまして、実際に漁獲後の処理方法を指導していただくでありますとか、また現在もやっておりますが、例えばキンメダイなどの神経締めとか、そういったことも含めまして、これまでの魚種をより鮮度を高く、あるいは価値を高めていくということで、そういった神経締めなどの技術移転、こういったこともやっていかなければというように考えております。</p>
三浦委員	<p>わかりました。 付加価値向上させていくということですね。</p>
藤井水産課長	<p>はい。</p>
中奥委員	<p>はい、今の点に関連するのですが、生産現場にこうプロを派遣するというのも、非常に意義があると思うのですが、逆に現場の方が豊洲等に来て、自分たちの獲ったものが市場でどういように評価されているかというのを知ることが大事だなと思っていて、漁師さんは、自分たちは良いものを出していると思っているのですが、実際市場に行ってそれがどう評価されているのか、他の産地のものとその差がどうなのかっていうことを知ることによって、自分たちが改善すべきことというのがまた見えてくるんじゃないかと思うので、そういったこともご検討いただければと思います。</p>
藤井水産課長	<p>ありがとうございます。 そちらについては、4 番の人材育成のところでも、若干触れてはいるのですが、そういった漁業者を先進地にお連れするなど、こういった取組みも予定してございますので、中奥委員のおっしゃられました、市場でどういように取扱われているのか、こういったことなども見ていただくのも 1 つの方法かなというように思っております。 ありがとうございます。</p>
中野所長	<p>試験研究からも補足でお話しさせていただきます。島しょセンターの来年度の新規の研究で、小笠原になるのですが、小笠原は非常に遠隔地ということで、小笠原の漁業者が市場に視察に来たりすると、何かその品質保持に関する処理をしてもらえないかというような話がよくあるらしいのです。変な話、物が同じであっても、そういう処理をしているか、していないかそういっ</p>

	<p>たことで非常に評価に違いが出るというようなこともあり、その特に底魚については、現場の漁業者ができる例えば血抜きですとか、あるいは神経締めですとか、船上で簡易に処理して、しかも共同出荷ですので、全員が取組めるような、そういう現場に合ったやり方を是非研究して欲しいということがありまして、来年度から新規で研究をする予定になっております。</p>
座 長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>私からも1つ質問なのですが、漁業所得の向上のところの真ん中の四角のところ、漁獲される魚種の変化とか、新たな事業に対応した新商品の開発や販路開拓等支援ということで、これはそういう状況の中で何かやってみたいよというのが出てきたら対応するというイメージなのか、もっと行政、東京都なら東京都が積極的に働きかけて、どんどん開発を進めていくというイメージなのか、事業としてはどちらのイメージをお持ちでしょうか。</p>
藤井水産課長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>関委員のおっしゃられました後段のあたりですけれども、そういったニーズを我々の方も聞いておりましたので、今回それを事業化したというようなイメージです。</p> <p>具体的にはそういった新たな取組みを支援していく取組となっておりますが、来年度以降予定をしているものとしたしまして、例えば現在、キハダの漁獲などが増えているということで、特に小型魚については、なかなか利活用の方法が乏しいということで、例えば八丈島の方などでは学校給食向けに食材を提供しておりますが、こういったものへの展開が図れないかといったようなお話なども頂いておりますので、そういったものへの支援でありますとか、また例えば先ほど来申し上げておりますクロマグロの漁獲が増えてきているということで、その鮮度を高めていくために、船の上に海水殺菌装置、これを船に装備をするようなことなどについて支援対象等していきたいと考えております。そういった新しい取組み、販路開拓であるとか鮮度向上、こういった取組みに対して、支援をできる事業、補助事業ではございますけれども、こういったものを組んでいく予定としております。</p>
座 長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>はい、三浦委員。</p>
三浦委員	<p>漁業者ができることとしたら鮮度向上ですとか、付加価値上げるために自分たちがどうすれば良いのかってことを考えながらやるのが非常に重要だと思っています。そうした中で、特にその島という立地条件を考えると、例えば地域の認証制度とか、日本であればマリエコラベルの認証制度ですと</p>

藤井水産課長	<p>か、そういうものを取得しながら、そしてまた活締めとかですね、そういうものも絡めながら販売していくというようなことは考えているのでしょうか。</p> <p>その辺を教えていただければと思います。</p> <p>まず認証制度でございますけれども、これまでの予算の中で認証取得にかかる経費について支援をするような事業も継続的に実施予定でございます。ただ実際的にはコロナ禍などありまして、なかなか手が挙がっていないという状況でございますけれども、一応そういったニーズにも対応できるように、生産段階あるいは流通段階の認証を取れるように、それを後押しできるような支援事業というのは、継続的に続けていく予定でございます。</p>
座長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>この2の経営分野について、他にありますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>はい、そうしましたら、3番目のマーケティング・ブランド化に移りたいと思います。</p> <p>まずは説明を、よろしくお願いします。</p>
藤井水産課長	<p>はい、次に施策の方向性3のマーケティング・ブランド化分野でございます。</p> <p>こちらでは、対象を絞ったマーケティングによる消費拡大と認知度向上の観点から、以下にご説明します施策を展開予定でございます。</p> <p>まず初めに、小中学校向けの出前授業や子育て世代を対象といたしました調理講習会などによりまして、東京水産物への理解と消費を促進するとともに、例えばエシカル消費のような、こういった消費を嗜好する消費者に対しては、イベントなどで資源や環境に配慮して漁獲されたブルーシーフードなどをPRすることとしております。</p> <p>また、子育て世代などに向けまして、時間の効率化の観点などからいわゆるタイムパフォーマンス、タイパなどと言われておりますけれども、こういった視点なども盛り込んだレシピ動画、こういったものの制作などを進めることとしております。</p> <p>またこういった取組の一翼を担っていただいております、漁業者であるとか、漁協の女性部こういった方に対しまして、他地域での取組事例収集のための視察・交流会などへの参加も支援してまいりたいというように考えております。</p> <p>以上が、マーケティング・ブランド化についてのご説明となります</p>

座 長	<p>はいありがとうございます。</p> <p>この3番目のマーケティング・ブランド化に関しましてご質問、ご意見ございましたらお願いします。</p>
副島委員	<p>はい、エシカル消費とかタイパとか、今流行りの言葉をふんだんに盛り込んだ内容になっていて、興味深いなと思いながら聞いていたところですけども、質問は、タイパもすごく流行り言葉ですけども、タイパの視点を盛り込んだレシピというのは、例えばどういうものを念頭に置かれているのかというのがあれば、ご紹介いただきたいということと、もう1つはそのレシピがこの東京の水産物だったらなお良いというところをどうやって結びつけようとされているのか、別に東京の水産物じゃなくてもいいものだったら、あまり意味がないのかなと思ったりもするのですけれども、その辺のお考え等があれば教えていただけたらと思います。</p>
藤井水産課長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>具体的にはこれからということで、こういったものがあるというわけではないのですけれども、例えばいわゆるタイパなどという観点からは、これまで魚の捌き方から含めて1から調理するようなコンテンツであるとか、そういったものは我々の方で、たくさん作ってきたわけですけども、なかなか今の若い世代がそこまでやるのかとか、あるいは、日頃会社勤めをされている方が帰ってから、そういったことを日常の中ではできないというような状況もございますので、いちから魚をさばかなくても、例えば冷凍品であるとか、加工品の利用などであっても良いというように考えております。こういったものも使いながら、気軽に手軽に水産物に親しんでいただく、こういったことをしっかりとPRしていくということは、大事じゃないかと思えます。</p> <p>また、今色々魚のサブスクということで、調理品とか半調理品などのものも、注目を集めている状況ですので、先ほどの2のところでも申し上げました加工品開発のところなども連携を取りながらやっていければ、東京産のものをPRしながら消費者に知っていただく、あるいは食べていただくということにもつながるのではないかと考えております。</p> <p>こういった部分、なかなかまだ構想段階ですので、逆に委員の皆様からアイデアなどいただけましたら、具体的にこういうコンテンツを作る際の参考にさせていただければと思いますので、是非ご意見賜われればというように思います。</p>
副島委員	<p>ありがとうございます。以前に八丈島に行った時に、私たち漁協の女性部でたくさん買い物したのですけれども、やっぱり既に味噌漬けになっていて</p>

座 長	<p>あとは焼くだけとか、レンジで温めるだけという商品も、かなりあったのでそういうものも活かしながら、新しいものも提案されていったらすごく魅力的になるのかなと思いました。</p> <p>ありがとうございます</p>
木村委員	<p>はい、どうぞ</p>
藤井水産課長	<p>ブランド化と書かれているのですけれども、これなかなか難しい言葉で、ブランド化するには東京都で特色のある何かがあるからブランド化できるので、その点は何か具体的な方策あるいは対象とするものの目星というのはあるのでしょうか。</p>
木村委員	<p>そうですね、なかなかブランド化 と一言で言って難しいと思っております。色々と先ほど来から例えば鮮度管理であるとか、そういった視点ももちろん重要というように思っておりますし、1 番のところで申し上げた資源管理、こういったことをしっかりやっていくということもブランド化の 1 つの柱になるのではないかと考えております。東京都の場合は、キンメダイあるいは小笠原ではメカジキといったような魚種が非常に多く獲れておりますので、そういう魚種を中心に様々な観点からブランド化ということは検討してまいりたいと思っております。</p>
藤井水産課長	<p>そうですね、色々な名前だけが先行してしまって、実際は他と何も変わらないのだけれど、名前だけは先行するそれも経営戦略の 1 つだろうとは思いますが、やっぱり何か対象をきちんと絞って、本当の意味での特色があるものを構築してくという努力をした方が、ちょっと遠回りになるかもしれないけれども、確実に息の長いブランド化ができるのかなと思いました。</p>
座 長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>ブランド化というのは、ある意味消費者との約束だというように思いますので名前倒れになって、名前先行して身が伴わないということではなくて、やはり産地も含めてしっかりしたものをしっかりとした約束の元で出していく、こういった取組が必要と考えております。</p>
座 長	<p>では、私からも。</p> <p>PR やレシピを作ったりということなのですが、そもそも、東京産水産物がどこで入手できるのか、それは加工品も含めてなのですが、例えば先ほど副島委員が言ったように、八丈島に行ってお母さんたちが作ったものを見ると、やっぱり欲しくなるものがたくさんあるのですよね。既にす</p>

	<p>ごい魅力は持っているのだけれど、でもではそこに行かないと買えないのかとか、普通に生活している中でどうやったら手に入れられるのかということとセットにして、PR するというのがすごく大事なかなというように思いました。</p>
藤井水産課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>特に東京産のものについては、生産量自体が全国シェアから比べて少ないということもございますので、非常に重要な視点というように考えております。</p>
座 長	<p>他にいかがでしょうか。</p> <p>よろしいですか。</p>
三浦委員	<p>最後のところで、漁業者と漁協の女性部の視察とか交流大会、そういうものに参加をしていくということなのですが、視察などは例えばどのようなところイメージしているのか、様々な海業とか、様々な先進的な事例をやっているところもあるので、そういうところで見ること、先ほど関座長が言われたような、店の展開をしながら買えるところとか、東京都の魚をしっかりと買えるところ、食べられるところというのをやっていくというのは1つの手でしょうから、どのようなことをイメージしているのか教えていただければと思います。</p>
藤井水産課長	<p>はい、こちらにつきましては、例えば先ほどありました市場の荷の状況を見ていただくという意味で、豊洲であるとか地方の市場、出荷先の地方の市場を見ていただくということなどは、1つの候補になると思いますし、例えば活締めとか、そういった鮮度管理技術について、他の漁協の先進事例、こういったところを見ていただくことも重要だというように思います。</p> <p>また、三浦委員からございました海業、東京都での展開というのはまだ遅れている部分ございますけれども、全国で海業を展開しているいくつかの地域もございますので、将来的にはそういった地域への視察、こういったことなども対象になってくるのではないかと考えております。</p>
三浦委員	<p>そういうことは、相談いただければ少しは役に立つかと思えます。</p>
藤井水産課長	<p>はい、ありがとうございます。是非そういった全国の情報について、我々もなかなか情報が乏しいところがございますので、よろしく願いいたします。</p>

座 長	<p>はい、ありがとうございます他よろしいでしょうか。</p> <p>はい、ではそうしましたら、4番目に移らせていただきたいと思います。</p> <p>漁村地域活性化、人材育成分野ということで、まずご説明を事務局からお願いします。</p>
藤井水産課長	<p>はい、続いて4点目の漁村地域活性化、人材育成分野でございます。</p> <p>最初の視点でございます、漁村地域の活性化については、漁村地域の活力を支える漁業者や漁協女性部に対しまして、以下の取組を支援してまいります。</p> <p>まず、小中学校への出前講座などの食育の活動、また漁獲される魚種の変化や新たな需要に対応しました新商品の開発、販路開拓、3点目といたしまして他地域での取組み事例収集のための視察・交流会への参加などを支援いたしまして、その取組みを後押ししてまいりたいと思います。</p> <p>続いて2つ目の視点でございます、人材育成でございますけれども、こちらでは漁業人材の減少や高齢化が東京においても急速に進んでいる状況でございますので、取組みの拡充を図ってまいりたいというように考えております。具体的には国が開催いたします就業者フェアへの参加などに加えまして、民間の就業相談会を活用したマッチングの機会、こういったところを拡充するとともに、インフルエンサー等を活用しました東京の漁業の魅力発信、こういったことにも取り組んでまいりたいというように考えております。また業務に必要な資格取得を目指す漁協職員への支援を新たに開始するなどいたしまして、これまで漁業者に特化した支援でございましたけれども漁協職員なども支援の対象といたしまして漁業の担い手の確保育成を図ってまいりたいと考えております。</p> <p>一方、これまでの議論の中でご意見のありました漁協女性部等への円滑な事業継承への支援、また海業の導入による漁村地域の活性化、これも非常に重要な観点だというように考えてございます。これらにつきましては地域のニーズなどを踏まえながら、引き続きその可能性を検討してまいりたいと考えております。</p> <p>以上が漁村地域活性化、人材育成についての説明になります。</p> <p>関座長、よろしくをお願いします</p>
座 長	<p>はい、説明ありがとうございます。そうしましたらこの4番目の分野、漁村地域活性化、人材育成に関しまして、ご質問ご意見ございましたらお願いします。</p> <p>では、私から口火を切らせていただきたいと思います。</p> <p>例えば、女性部さんが視察に使えるとか、それから漁協職員さんを対象とする、これも非常に重要なことだと思います。こういうソフトな部分に支援</p>

	<p>をしていただけるというのは良いことだと思うのですが、1つ、今までも国の事業では、女性部さんなり、女性のそういう活動に対して支援をするという事業があったりするのですが、どうも実際に実施している当事者さんへ、直接その情報が届かないということが全国的によく問題になると思いますか、課題として出されたりしております。なので、こういう事業があって、こういうやり方で、こういう目的で、こういうことに使えるということが、直接、女性部のメンバーや職員さん自体に情報が届くようにするということが、こういう事業を成功させるには必要なのではないかと思いますので、意見を言わせていただきました。</p>
藤井水産課長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>おっしゃるように、せっかく事業を作っても使っていられなければしょうがないので、こちらについては、特に東京都については地元の支庁であるとか、試験研究機関もございますので、そういった職員などを通じまして、実際の事業開始であるとか、募集、このような時に、しっかりと情報が伝わるように、また参加者の参集にあたっての協力なども漁協にさせていただいておりますので、そういったことでしっかりと事業を回していければというように考えております。</p> <p>ありがとうございます。</p>
座長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
木村委員	<p>ここで、漁業就業者フェアと書いてありますが、それはどのような形で参加をするのか、それはもう経営体ベースなのか、それとも例えば島などでは漁協ベースなのか、それとも東京都全体としてこういう漁業があって、人材を求めていますというのか、その点をお聞かせ願えればと思います。</p>
藤井水産課長	<p>はい、ありがとうございます。答えから言いますと、その全てということになるのですが、当然に漁協であるとか、個人の方にもお声かけをいたしまして、就業者フェアへの参加を呼びかけております。参加するための旅費等についても、一部支援をさせていただいているところでございますが、東京都でも令和3年から漁業就業を支援するための東京フィッシャーズナビという組織を都庁内に立ち上げておりますので、こちらのブースもそのようなフェアで設けまして、東京の漁業の魅力であるとか、就業の状況について情報発信をさせていただくこととしております。</p>
三浦委員	<p>全国漁業就業者確保育成支援センターでは、漁業形態とか漁協とか別に、</p>

	<p>このようなことやっています、人を求めていますという、ビデオを作り全国の水産高校さんが見られるように、閲覧できるように、配ったり、授業もやったりしております。そういうことをやられるともしかしたら島に来て働きたいという方もいるかもわからないので、そういうのも活用されたらいいのかなと思います。</p>
藤井水産課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>そういったビデオについても、これから作っていくものもございますので、その配布先、発信先につきましても、三浦委員にいただきましたご意見なども参考に、できるだけ見ていただけるようなことを検討していきたいと思っております。</p>
座 長	<p>はい、他にいかがでしょう。</p>
木村委員	<p>先ほど来のスライドでもあったのですが、小学校、中学校は記載されているのですが、高校はないのですよね。それはどうしてなのでしょう。</p>
藤井水産課長	<p>特に排除しているというわけではないのですが、特に今まで漁協の女性部さんなどが行ってきました事業については、学校給食と連携して、学校給食に島の魚を提供しつつ、その時に出前授業をセットで行うという立て付けになっております。その関係上、学校給食のない高校等には、なかなか展開はできないという状況があったのですが、個別にはお話があれば、高校などへも対応はしておりますので、別に高校とか大学を排除しているわけではないということで、ご理解いただければと思います。</p>
木村委員	<p>それはそういうお答えになるだろうと思質問しているのですが、やはり東京都ならではの魅力というのは何かというと、東京都、首都であるということから、いわゆる進学校が多いですね。高校レベルになると、資料中にインフルエンサーという言葉があるのですが、そういう意味では将来的に色々な場面でもって活躍できる人材というのは、やはり数として東京は多いというのは、これは顕然たる事実だと思います。そういうような、東京都ならではの地の利を生かした人材育成だとか、それから活性化の議論だとかをしていった方が良くと思いますので、高校も、水産高校等いわゆる現場に直接的なものだけではなく、色々な高校にアプローチしてみると、皆学力の高い生徒が多いと思いますので、そういう方々がインフルエンサーに、実は将来的にはなってくる。その5年ぐらいの10年ぐらいのスパンで考えていくと。このため、今いるインフルエンサーというよりも、将来そう</p>

	<p>いう意味での Web で発信するインフルエンサーという意味ではなく、色々な場において活躍でき、自分の意思を情報発信できる方々への教育だとか宣伝をきちんとできたら、東京都の地の利を活かせるのではというような気がいたします。</p>
藤井水産課長	<p>ありがとうございました。我々の方にはなかなか無いご意見でございますので、そういったご意見も反映できるよう検討を進めて参りたいというように思います。</p>
座 長	<p>よろしいですか。今の木村委員のお話を聞いて思い出したことがあるのですが、私自身自身が都立高校の出身なのですが、武蔵野市の方の都立高校で、高校 1 年生の時に全員で大島に行くというのが恒例な母校でありまして、そこで都立大島高校と交流会をしたり、そういう経験をしたのですね。その時やっぱり東京都って広いなというのをすごく感じたのですね。今母校でまだそれをやっているかどうか、もうだいぶ昔の話なのでもうやっていないかもしれないのですが、考えてみたらこちらの本土の方の都立高校と島の学校との交流など、そういうことも 1 つ何かのきっかけになるのかなということを感じました。高校の時の記憶としては、大島に行ったというのは、皆私の世代の生徒だった人たち皆すごくよく覚えているのですよね。だから、せっかくそういう体験ができると東京って本当に広いのだよということですね。そういう交流があっても良いのかなと思ったので、付け加えさせていただきます。</p> <p>はい、三浦委員。</p>
三浦委員	<p>同じことなのですけれども、本当に東京都が、東京都にこれだけ人がいて、よくその議論の中で水産に携る人が減ってきたかとか、魚食が減ってきたなどという時に、やはりその海に接するとか言いますか、そういうものがどんどん減ってきたと思います。昔は臨海学校などがありましたが、今そういうものがなくなって、自然と海に接する機会がすごくなくなったことが大きいではないかということが議論されています。そうした中で考えた場合に、魚食普及も含めて、上がる、沈む、その鍵は東京が握っているのかもしれないですね。東京がそういうことに目覚めていくと水産物の消費や色々なことが上がってくる可能性もあるので、本当に試験的でも良いので模索してもらいたいなという気が、色々な話を聞いて思いました。</p>
藤井水産課長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>なかなか東京都の重大な責務ということで、身が引き締まる思いでございますが、色々アイデアなど是非また賜りながら、そのような視点も盛り込ん</p>

座 長	<p>でいければというように思っております。</p> <p>思ったのですけれど漁協女性部さんが、視察に行くということも書いてあるのですけれども、他所の地域もですけれど、違う島同士の八丈島と新島のような、その島同士の交流みたいな機会もあるのかもしれないですけれども、そういう機会も必要なのかなと思いましたがどうなのでしょう。</p>
藤井水産課長	<p>ありがとうございます。当然にそういった交流もあるのですが、やはり各地域の女性部の皆さん、高齢化とか減少が進んでいる中で、活動が低迷しているという状況もございます。以前からお話いただいております技術継承であるとか、人材育成の継承、こういったところとも繋がってくる重要な視点であるというように思います。特に八丈島だけに限らず、他の地域でもしっかりとそういった女性部などの、地域の活力を増やしていけるように維持していけるよう、我々としても力を尽くしていければというように思います。</p>
座 長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他いかがでしょうか。</p>
中奥委員	<p>はい、前にも申し上げたのですけれど、この漁村地域の活性化、人材育成という両方にかかってくる話として、やはりこれから地域の人口減少は避けられないので、やはりこういうことを進めるにあたって、移住対策とか定住政策とタイアップしながら進めていっていただきたいと考えております。これは要望でございます。</p>
座 長	<p>はい、その他いかがでしょうか。</p> <p>はい、そうしましたら、第4分野についてはこの辺で一度閉めさせていただき、最後の第5ということの内水面漁業活性化ということについては説明をお願いします。</p>
藤井水産課長	<p>はい、そういたしますと最後の施策展開の方向性5でございます、内水面漁業の活性化についてご説明をいたします。</p> <p>まず、第1といたしまして、魅力的な漁場作りとしましては、多様な漁場作りを進めるため、禁漁区あるいはキャッチ&amp;リリースなどといったものの設定や電子遊漁券の導入、こういったものに取り組む漁業協同組合に対しまして支援を進めてまいりたいというように考えております。また、都におきましても、釣り人や漁協などの意見を踏まえまして、新しい釣り場作りの検討、青図面、こういったものを作ることを進めてまいりたいと考えております。</p>

	<p>また2つ目の視点でございます、多摩川のアユの活用でございますけれども、こちらにつきましては、漁業協同組合に対しまして、多摩川を遡上してきました、いわゆる遡上アユ、こちらの汲み上げ放流、また産卵用の親魚放流、こういった取組への支援を行うことで、江戸前アユの資源の安定化を図ってまいりたいというように思います。また観光資源としての活用も視野に入れまして、こういった産卵親魚を確保するための築漁、こちらの復活についても検討を進めてまいりたいと考えてございます。</p> <p>なお電子遊漁券の導入後のビッグデータの活用といったようなご意見も賜っております。こちらにつきましては、国の方でもそういったデータ活用を進めているというような情報を聞いております。我々の方としても、今後整備した後に、そういったデータをどのように活用していくのか、こういったことについては国の情報なども取り入れながら、引き続き検討を進めていきたいと考えてございます。</p> <p>また先ほど来、中奥委員からございました定住促進であるとか、外部人材の活用、こういった視点も重要というように認識はしておりますので、引き続きその可能性を検討してまいりたいと考えてございます。</p> <p>以上が、内水面漁業活性化についてのご説明になります。</p> <p>座長よろしくお願いたします。</p>
座長	<p>はい、ありがとうございました。そうしましたらこの第5の内水面漁業活性化に関しまして、ご意見ご質問等ありましたらお願いします。</p> <p>はい、中奥委員。</p>
中奥委員	<p>内水面漁業という、なかなか日の当たらないところに、この施策の柱の1つとして、東京都さんが取り上げていただいてこういった取りまとめをいただけるというのは、本当にありがたいなと思います。先ほど三浦委員からもありました通り、日本の鍵を握ると言っても過言ではない東京の施策に、表に出てくるというのは、本当に心強い限でございます。ここに書かれているような方向性、施策に沿って是非進めていただきたいと思うのですけれども、これまでも申し上げてきた通り、やはりその基盤となる川の環境ですね、健全な川があつてこそその内水面漁業ですので、多摩川のほとんどは国交省の管理ということで、なかなか都の水産部局として、直接的な施策として打ち出すことは難しいかと思うのですけれども、是非その川づくり、河川環境の改善といったところに、内水面の漁業者の知恵なり意見なりが、うまく取り込めるように側面からサポートをお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。これは要望です。</p> <p>あと1つ電子遊漁券の導入ということで、支援をいただけるという施策があるわけですが、先ほどスマートのところでもあったのですけれど</p>

も、内水面の漁協の中には、高齢化も進んでいて、電子遊漁券を入れたいのだけれども、そういう人材がいないとか、そういった声が聞かれます。是非、これについても、その伴走支援と言いますか、なかなか手を上げづらい人たちなので、そこをもう少し寄り添って支援をいただければというように思います。よろしくお願いいたします。

また、親魚確保のためのやな漁というところで、どのような利用をされるのかなというのが、分からなかったのですが、もう少しご説明をいただければありがたいのですが。

藤井水産課長

はい、それでは順にご説明をいたします。

健全な河川作りに向けてということで、多摩川は国の直轄管理でございますけれども、実は都と国で連携いたしまして、国の進めている魚の上り下りしやすい川造りを進めております。そういった取組みの中で、具体的には平成19年からだと思いますが、多摩川に設置されている河川横断物、構築物、こちらの魚道をしっかり機能させるための連絡会、こちら国と都で毎年開催しております。このような中で、例えばこれからアユの遡上時期になりますけれども、しっかりと魚道が機能するような状況を流域の市区町村と連携いたしまして、確認をするといったような場作りも行っております。今、国とはアユの遡上に関しては良い関係性が築けている状況でございますので、国とも連携しながら、また流域の町村、漁協とも連携をしながら、アユを中心とした魚が上り下りしやすい川造りということを引き続き進めてまいりたいと考えております。

またデジタル化の伴走、こちらについても重要な観点というように思います。東京都の場合、内水面だけでは6漁協ございますけれども、そういった漁協に対して、我々の職員もしっかりと伴走はしていくつもりでございますが、場合によっては先ほどもお話がありました、国の伴走支援が使えるのかどうかといったようなことも、探ってまいりたいというように考えております。

それから3点目のやな漁のイメージでございますけれども、現在東京都で親魚放流、こういった取組への漁協への支援ということも行っておりますが、これまでの取組みの中では他県産のアユ、これを購入してきました、親魚放流用の魚として活用しておりました。ただ、やはり他県産のアユということで、できればそういったアユを地元産、いわゆる多摩川産のアユに置き換えていきたいというように考えておりますので、特に多摩川の中流域の方では、十分に河口域まで降下できずに、滞留をして、いわゆる次年度の産卵に寄与しないようなアユもいるように承知しております。こういったアユをやな漁などで捕まえて、下流域のいわゆる産卵域に持って行き、多摩川産の産卵親魚として活用できれば、漁業協同組合の方の負担も軽減されます

	<p>し、他所から買ってくる際には、色々なリスクが伴いますが、そういったリスクの低減にも繋げられるのではないかと考えております。そういった意味で、できるだけ多摩川のアユを親アユとして使っていけるようなことに、やな漁なども活用していきたいと考えているところであります。</p>
中奥委員	<p>ありがとうございます。</p>
中野所長	<p>私から、この内水面漁業の活性化に関する研究面での取組みをご報告させていただきます。この多摩川のアユの活用という視点では、汲み上げ放流の前提となる東京湾から遡上してくるアユの数、これ昭和 50 年代から計数しておりますけれども、これは引き続き行っていきます。また魅力的な釣り場作りという視点では、釣り人が釣りをしていくと、放流を段階的にしますけれども、釣れなくなって魚がいない段階になると追加放流して、お客さんが、釣り人が常にいる状態を保つのが 1 番良いのですけれども、例えばアユがいるのに釣れない場合があったり、アユがいなくて釣れない場合があったり、そういうことが組合員の方もかなり高齢化が進んで確認するのが場所によってかなり大変な場所も出てきているというようなことで、島しょセンターの方では、その環境 DNA を使って、河川にどういう魚種がいるのかというのを以前から調査しているのですが、比較的その環境 DNA でいる、いない、そういったものが分かるということが分かって来ましたので、今年度からですけれども、それをさらに進めて、環境 DNA を使用して補植放流に繋がるような、水を組んできてそれを調べることによって、もうアユがいなからここには放流した方がいいよとか、そうじゃないよといったようなところまで分かるような研究を進めて漁協の要請に答えていこうという、そういう研究に取組み始めました。</p>
木村委員	<p>国交省とのコラボレーションをやるという中で、是非、産卵床の確保と保全ですね、この点を是非検討、もう既にされているとは思いますが、されているようであればその状況もお知らせください。</p>
藤井水産課長	<p>アユについてということですね。</p>
木村委員	<p>はい、そうです。</p>
藤井水産課長	<p>アユの産卵場造成につきましては、従来から内水面魚連の方でアユの産卵時期に多摩川の中流域の方で、産卵場造成をこれまで進めてまいりました。そういった取組みに加えまして、今後はより積極的に産卵を促していこうと</p>

	<p>いうことで、産卵親魚を積極的に放流していき、さらに産卵量を増やしていかうという取組みにも着手することとしておりますので、そういったところについても国とも情報共有しながら進めていきたいと思ひます。</p>
木村委員	<p>はい、わかりました。</p>
三浦委員	<p>はい、魅力的な釣り場作りのところの3ポツ目のところになるのですけれども、私は元々東京都の出身で、結構子供の頃、秋川とか多摩川で釣りをやっていたのですね。そうした中でこの新しい釣り場作りを検討とありますが、どのようなことを考へているのか教えていただければと思ひます。</p>
藤井水産課長	<p>これから具体的に漁協や釣り人の意見を踏まえながら、釣り場作りを進めていくことになると思ひますけれども、冒頭にございますような、例えばキャッチ&amp;リリース区とか、禁漁区こういったようなものへのニーズは高いというように聞いております。釣り人についても、釣った魚を持って帰るだけの人ではなくて釣りを楽しみたいとか、例えばフライとかだけをやりたいたいとかいったような様々なニーズがありますし、また家族連れ、ファミリー、こういった方が楽しめるような、安全に配慮したような釣り場、こういったようなところもあるかと思ひます。そういったところ、一定程度ゾーニングをしながら、整備を進めていくというイメージになるのではなからうかと思ひておりますが、こういったところは具体的に関係者の意見を踏まえながら、計画を作っていければというように考へております。</p>
三浦委員	<p>やな漁のところでは観光資源としての活用も視野っていうことで、多分、多摩川とか東京都にやな漁があったら、結構みんな行く人多いのではないかなという気もするので、是非実現してもらいたいなと思ひます。</p>
藤井水産課長	<p>ありがとうございます。他県ではかなり観光地となっているところも多くございますので、この辺については内水面の漁協からも要望の高いような事項でございます。色々制度面で詰めていかなければいけない部分があるのですけれども、そういったニーズを踏まえながら制度改正なども含めまして、どういったことができるのかということこれから検討していきたいと思ひております。</p>
座長	<p>このやな漁を観光資源として使う場合に、この主体は誰になるのですか。</p>
藤井水産課長	<p>はい、将来的には漁協などを想定しておりますけれども、今後の試験的な段階においてはどこにするかというのは、これから具体的に詰めていくこと</p>

<p>座 長</p>	<p>になろうかと思えます。</p> <p>はい、ありがとうございます。</p> <p>他にいかがでしょうか、よろしいですか。</p> <p>そうしましたら、今1、2、3、4、5と5つの分野について説明していただき、質疑をしたわけですが、全体を通して、アドバイザーとして日々さんからご意見、コメントありましたらお願いしたと思えます。</p>
<p>日比オブザーバー</p>	<p>はい、どうもありがとうございます。</p> <p>まずはオブザーバーとして、このように参加させていただける機会をいただきまして誠にありがとうございます。毎回こちらの懇談会に出るたびに私自身色々学ばせていただいております。私自身は皆さんと全く異なる立ち位置から見せていただいております。本日のコメントは、島しょ部の話になるのですが、こちらに来ていつも思うことは、本当に魅力的な場所であると、世界の中でも、こういう立ち位置にある場所というのは、そんなになんという、毎回非常に強い印象を受けております。特にこれから、もう何十年後、世界はどんどんと養殖が捕獲漁業を上回る、そういうトレンドがあるというのは以前お話したのですが、そういう中で、特にその自然で獲れたそういう捕獲漁業で獲れた魚、そういう食べ物に対する魅力、憧れというのは、おそらく長期的には上がってくると思うのですね。今まだ皆そこまであまり認識していない状況であるというところで、まず、この地域が持つその潜在的な大きな魅力というのは、これからもますます拡大するものであるのかなと思っております。</p> <p>また、先ほどから外国人のインバウンドが増えている、あるいは観光客がどんどん今日本に入ってきて、日本の食べ物の魅力に気が付いて、高いお金も払っているという状況であるというような中で、本当にこの地域、島しょ部がある意味で大きな観光地のその1つのターゲットになる可能性があるのではないかなと思えます。皆さん最近ニュースで、ニューヨークタイムズだったかと思うのですが、今、日本に行く観光客が行くべき場所として、京都は良いけれども、あまりに人が多くて大変だということで、確か山口があがったはずなのですよね、それで一気に皆、山口、山口という話になり、私は次はこれは八丈島とか、東京都の島しょ部でも良いのではないかと、全然いけると思うのですね。なぜ私がそう思うのかというと、まず1つは、東京都なので、羽田に着いた時、そこからまたすぐに飛べるその便利さ、これはなかなか他の地域にはないものであること。それから、やはりそこにある自然の美しさであるとか景観の美しさ、そして天然資源、そして食べ物ですね。現地の美味しい食べ物、そしてクサヤのようなその土地ならではのもの、それ以外にも、例えば伝統文化とか歌とかあるいは工芸品なども</p>

私も色々見せていただいたのですけれども、そういうものもあるということで、非常に1つの観光デスティネーションとしては、色々な魅力が詰まっている場所です。そう考えるとここは一気にですね、大胆にもう次はそこを狙おうというように考えられて、その戦略の1つとして漁業あるいは、その現地の政経の活性化みたいなところ、あるいは若い人を取り込むということも、その過程の1つとしてあっても良いのかなと思いました。先ほども座長がおっしゃっていたように、例えば修学旅行など、そういうのもありましたけど、いっそのこと例えばスカウト系ですね、ボーイスカウトやガールスカウトみたいなところに、アプローチしてこういう経験もできるというような簡単なルートを作ってしまう。それから先ほど三浦委員がおっしゃっていましたが、魚礁ですね。実は私この日本に帰る前に、サモアでFAOの現地代表をしていた時に、島しょ国の様々な沿岸地域の活性化のために、現地での小規模漁業を安全にするための施策と人工魚礁を沖合に入れてそこに付加価値の高い魚を集めて、少しでも漁獲による生計を増やすというようなこともやっていました。その一環として出てきたのは、ついでにそこに例えばそのマグロとか、大きな魚が入ってくる場合は、そこを1つのスポーツフィッシングの場所にしようと、そこに行けばほぼ確実に魚が釣れるよと、あまり沖合まで出なくて良いので、そこまで危険もないということで、そこにスポーツフィッシングをやっている人たちを呼び込んで、1つの大きな釣り場みたいな、そういう観光のデスティネーションにしようかというような話がありました。そういう可能性は私その分野の専門家ではないので、分からないのですけれども、そういう可能性というのはあるのかなと思います。

さらにデジタル化で色々なところでこう省力化をしたり、あるいはそれによって発信力を高めるというようなことが出てきたと思うのですけれども、1つ、色々な場所で見えて面白いなと思ったのは、自分でドローンを飛ばして色々撮影できる場所、やりたいという人がいて場所によってはドローン学校とか、ここに来たらすごく綺麗なドローンで撮影ができますよというような場所を提供している場所があるのですね。ドローン愛好家は多分たくさん来るのではないかなと思います。その一環として、改めてまたその他水産を含めて、現地の産業への興味関心が高まるということで、もう少し統合的な観光デスティネーションの可能性はあるのかなというように思いました。

この中で非常に重要になってくるのが、何度も今日のプレゼンテーションの中にも入っていましたが、若者をどういふように取り込むか、インフルエンサーを何か利用できないのか、そういうメッセージ性があるもので、一気にヒットさせることはできないのかということも入ってくると思うのですけれども、若干、この漁業、水産からちょっと外れますが、その一環として考えられると私は十分に可能性のある考えかなというように思っております。

<p>座 長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>これを受けて、都から何かありますか。</p>
<p>藤井水産課長</p>	<p>非常に大きな視点からのご意見をいただきました。ありがとうございます。例えばスポーツフィッシングなどの活用については、既に島しょ海域では、例えばカジキを対象としたトロリング、こういったものを一定のルールのもとに解放して、スポーツフィッシングを楽しんでいただく、これ日本人だけでなく外国人ができるようなことも規制緩和をされてきているような状況もございます。そういったところで観光の一資源として漁業というところも貢献できるのではないかとこのように考えております。</p> <p>築田部長よろしいですか、観光の視点からなにかあればお願いいたします。</p>
<p>築田部長</p>	<p>はい、築田でございます。後ろから失礼いたします。昨年度まで観光部におりまして、やはりお話しいただいたように、東京都は大都市である区部と自然豊かな多摩・島しょ地域という意味で、これだけ多くの方に住んでいただきながら色々な景色を楽しんでいただく、情景を楽しんでいただける魅力があります。島では観光でも力を入れて PR させていただく中に、やはり実際に色々な方を呼び込んで来ていただいて広めていただくような取組みであったりとか、やはり MICE とかで、海外の方々、主要な方に来ていただいて、MICE と言いいましても、都市のような大規模なホテルがないものですから人的には小規模にはなるかとは思うのですが、島しょ MICE みたいなものがきっかけとなって、もっと世界各国に島しょの魅力が発信できるようになったりなど、色々な仕掛けは同じ局内の観光部とも連携してやっております。水産業、漁業が持つ魅力が観光と相まって、色々な働きかけで皆さんに魅力を感じていただいて地域の活性化につながれば良いと思っております。貴重なご意見頂戴いたしまして観光部とも共有しながら、島を盛り立てていき、漁業を盛り立てていければと思っております。</p> <p>ありがとうございます。</p>
<p>座 長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>はい、それでは委員の皆様も、1つ1つについて質疑をやりましたが、全体通して最後おっしゃりたい意見もまだあるのではないかなと思います。最後1人ずつ順番に回していきたいと思っておりますので、全体通してでもいいですし、もう1回追加でということがあれば、そのことでも構いませんので発言を最後お願いしたいと思います。三浦委員から。</p>

三浦委員

今回、取りまとめのところ本当に良くできていると思います。今、水産業界で本当に大きな問題となっているのは、海水温上昇等々を始めとする海洋環境の激変にどうこれから対応していくかということ。これは長い戦いになるかも分かりませんが、非常に重要な視点として捉えられている。その中の1つとしては、資源管理や環境保全、そして環境回復の取組みを増していくということ、もう1点につきましては失われた、減った漁獲量というものを、どうやって補うか、それが難しければ所得が変わらないようにするために漁師ができる、そしてまた流通ができる付加価値を高めながらその価値を認めてもらう販売方法、販売の仕方を考えながら、出口戦略を強めていく。この2つが非常に重要な要素だと私としては思っておりますので、そこがしっかりと分けて、この施策には載っているのかなと思います。こういった視点を大切にしていきながら進めていただければ、未来は明るくなってくると思っています。それとあと1つ、先ほどオブザーバーの日比さんからありましたけれども、魚礁というものをもう少し藻場・干潟だけではなく、魚礁効果と相まった放流、稚魚の放流等、今、貝類しかやられていないということだったので、魚類をやるのであれば、魚礁と相まった放流というのも効果的であったりするので魚礁という考え方を、もう少し考えてもらえたら良いと思います。私からは以上でございます。

座長

はい、ありがとうございました。  
では、木村委員。

木村委員

先ほども申し上げたのですけれども、やはり東京都としてのブランドをもっと全面に出されて、私は違う角度で東京の良さという地の利というのを申し上げたつもりなのですが、東京の良さは何なのかというのを改めて考えていかれた方が良いということが1点と、それからもう1つは、先日八丈島に行った時に、島しょセンターの八丈島の事業所なので、農林も含めたものになっていますよね。農業の方は別のところにあるのですか、あちらは水産だけなのですか、いずれにせよ建て替わるといってお話を聞いています。その際に、やはりせっかくなのでもう少し民間に場所を提供して、博物館的な要素をそこに入れていくとか、クサヤの施設を持ってきて体験させるとか、されるといいと思います。なぜそのように感じたかと言うと、連れて行っていただいた民間のところは駐車場もないし非常に小さなところで、雰囲気はものすごく良く感じられたのですけれども、多くの人を集めるには少し無理があります。女性部のところも同じようにして駐車場がなかったり、またもう少し大規模に展開することを考えると、そういった時に研究施設の場所というのは、それなりに場所が確保されているのと、それからこれから新しく作ら

	<p>れていくので、色々な展開も考えられると思います。もうすでに設計は終わっていて、建設段階になるかもしれませんが、将来的にはそのようなことも考えながら行政と民間がきちんとタイアップして行って、行政がそのような場所の提供ができるようなプロセスというのは、東京都ならでは、予算は大変だというのは承知の上ですけれども、東京はその点比較的容易にやりやすいと思いますので、是非そういうようなアドバンテージも使われたらどうかと思います。以上です。</p>
座長	<p>では、中奥委員</p>
中奥委員	<p>本当に東京というところは、山から川、沿岸そして海洋、島しょ部、大都市全てを揃えているので、その中で島しょ部というのは、これからの人口減少がいち早く起きてくる場所であるので、東京の施策がこれからの、日本の大きな施策をリードしてくというのは、間違いないのだろーと思います。そういう中で故郷の美しい川、海これを守りながら、それを活用していくというのが、まさに水産業ですので、地域の重要な地域活性化の役割を担う主体として、漁業者が活躍して地域振興に繋げていっていただく、そういうことを目指していただきたいなと思います。</p>
座長	<p>ありがとうございます。 では、副島委員。</p>
副島委員	<p>毎回出席するたびに、私たち委員が言ったことをうまく取り込んだ内容のプレゼン資料が出てくるので、すごいなと思いながら拝見させてもらっていたところで、今後どうなっていくのかなというところがすごく楽しみなところですよ。最後少しだけお聞きしたいのが、今回、外国人観光客の話などもたくさん出てきたのですけれども、委員の先生方とかオブザーバーの先生のお話を聞いて確かに外国の方に島に来てもらってゆっくり滞在してもらいたいのも、これからますます増えていったりするし、増えていったら良いなとも思いました。そういった時どちらかというと、外国の島でゆっくり滞在したいような人たちというのは、民泊のような形のところに泊まって、自分たちで料理もしながら朝ご飯を簡単に作って食べたりなどというのを好む人が多いと思うのですけれども、今実際に例えば Airbnb みたいな形で対応している島の受け入れ態勢はどのようになっているのかなというのを、最後お聞きしたいなと思ったのですけれどもお分かりでしたら教えてください。</p>
築田部長	<p>まだ、東京都の島しょ地域は民宿形態の方が圧倒的に多く、なかなか民泊的なそこでお料理していただくというよりは、食事付きで泊まっていただく</p>

	<p>施設が主流です。ただコロナを契機に食事は別で、食事はついていないけれども近くの居酒屋さんなどで食事をしたり、島の寿司屋で食べてもらうなどだ。いぶ島の中の形態も変わりつつあります。島に観光客を呼ぶにあたっては、富裕層をターゲットにした新たな旅行客の受け入れ施策を考えたりなどしているのですが、まだどうしても旅館とか民宿中心にはなっています。今後様々な検討が進んでいく中で、ご指摘のあったようなもっと幅広い色々な泊まり方とか、宿泊の仕方が出てくるのではないかと思います。</p> <p>すいません、お答えになってないかもしれませんが、そのような感じでございます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、私からも一言お話しさせていただきます。</p> <p>今回、漁業、水産業をどうするかということずっと事業化を考えてきたわけですが、東京の場合で言えばやはり、離島地域自体がどう持続する地域になっていくかと、そのためにはどうするかということだと思います。このため漁業、水産業をどうするかですが、やはりそこには農や観光や他の産業も含めて、地域全体をどう底上げしていくかというところに行きつくのではないかと考えております。事業の効果にそういった広がりを持たせることも狙っていったほうがいいなと思います。そして目標といいますかこの地域の将来像を見据えて、そこに向かって1つ1つの事業があるというところを、実行していただければと思います。</p> <p>はい、というところで皆さんよろしいでしょうか。</p> <p>では発言も出尽くしたようですので、事務局では今回の皆さんからの意見を反映して最終的な取りまとめをお願いしたいと思います。委員の皆様には懇談会の進行にご協力いただきましてありがとうございました。それでは進行を事務局にお返ししたいと思います。</p>
座 長	
小口課長代理	<p>はい、関座長ありがとうございました。</p> <p>今年度の水産専門懇談会は、今回の会議を持ちまして終了となります。ここで閉会にあたり、築田農林水産部長からお礼を申し上げたいと思います。</p>
築田部長	<p>失礼ながら着座にて、また三浦委員、木村委員に置かれましては後ろから失礼いたします。</p> <p>昨年に第1回目を開催いたしまして本日まで3回にわたりにましてお忙しい中ご参加いただきまして、貴重なご意見頂戴いたしました。誠にありがとうございました。</p> <p>東京の水産業は一大消費地がそばにあるという恵まれた環境がある一方で、色々この懇談会の中でもご指摘いただきましたが、海洋環境の変化によ</p>

	<p>る漁獲減であったり、担い手不足であったり、あるいは資材価格の高騰等、色々厳しい面もございます。そういった中で、持続可能な東京の漁業を実現していくためにどうしたらいいのだろうかということで、今回の懇談会を立ち上げて色々ご意見を頂戴した次第でございます。本日の5つの分野においてこれまで頂いたご意見をもとに来年度に向けてはこういった施策を新たに立ち上げた、あるいは拡充したということをご報告させていただきました。本件については来年度予算に盛り込む形で編成しておりますが、この後東京都議会の予算審議を受けまして成立しました折には、本日ご報告した事項をしっかりと組み込みまして、さらなる水産業の活性化につなげていきたいと思っております。</p> <p>引き続きご指導ご協力のこと、お願いさせていただきまして、閉会のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。</p>
一同	<p>ありがとうございました。</p>
小口課長代理	<p>ありがとうございました。本日は長時間にわたり大変お疲れ様でした。また、この1年皆様には多大なるご協力をいただきましてありがとうございました。これをもちまして令和5年度東京の水産業振興に向けた専門懇談会第3回を閉会いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>
一同	<p>ありがとうございました。</p>